



鹿児島県薩摩半島西岸から得られたベラ科テンス亜科（新称） バラヒラベラの九州からの初記録

久保田雄斗¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院農林水産学研究科（鹿児島市）
k6115478@kadai.jp

² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 16 August 2026
Revised 25 August 2026
Accepted 26 August 2026
Published 26 August 2026
DOI 10.34583/ichthy.70.0_42

Yuto Kubota and Hiroyuki Motomura. 2026. First Kyushu record of *Iniistius verrens* (Jordan and Evermann, 1902) (Labriformes: Labridae) from the western Satsuma Peninsula, East China Sea side of Kagoshima Prefecture, Japan, and a new standard Japanese name for the labrid subfamily Xyrichtyinae. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 70: 42–46.

Abstract

Three specimens (156.0–188.3 mm standard length) of the Longfin Razorfish, *Iniistius verrens* (Jordan and Evermann, 1902) (Labridae), distributed in the northwestern Pacific Ocean, were collected from the coast of Higashi-ichiki, western Satsuma Peninsula, East China Sea side of Kagoshima Prefecture, Kyushu, Japan. In Japanese waters, the species has previously been recorded only from Sagami Bay (southern Kanagawa), Osezaki (eastern Shizuoka), Shima (eastern Mie), and Tosa Bay (southern Kochi). Therefore, the presently reported specimens from Higashi-ichiki represent the first records of *I. verrens* from Kyushu, as well as the first records from outside the Pacific coast of Japan. In addition, the new standard Japanese name “Tensu-aka” is herein proposed for the labrid subfamily Xyrichtyinae.

ベラ科テンス属魚類 (Labridae: *Iniistius* Gill, 1862) は、これまでに日本近海から 10 種が記録されている（島田, 2013；本村, 2026）。このうち、バラヒラベラ *Iniistius verrens* (Jordan and Evermann 1902) は、日本、済州島、台湾、および南沙群島から報告されており（島田, 2013）、日本国内においてはこれまで、相模湾から土佐湾にかけての太平洋沿岸から散発的に記録されていた（島田, 2013；工藤ほか, 2022；本田ほか, 2024；笹木, 2025）。

2026 年 6 月に鹿児島県の薩摩半島西岸（日置市東市来町沖）から 3 個体のバラヒラベラが得られた。これらの標

本は九州からの初めての記録となるため、ここに報告する。

また、本種が帰属する亜科 Xyrichtyinae Bonaparte, 1841 は、現在、7 属 47 種で構成されている（Near et al., 2025; Fricke et al., 2026）。このうち、本亜科のタイプ属である *Xyrichtys* Cuvier, 1814 に含まれる種は、これまでに日本近海からの記録はない。一方、テンス属 *Iniistius* は先述のとおり日本近海から 10 種が分布していることが知られており（島田, 2013；本村, 2026）、これは Xyrichtyinae に分類される属の中で日本から最も記録が多い属である。Xyrichtyinae に適用されるべき和名について言及した文献はこれまでにないため、本研究では、日本において最も広く知られているテンス属 *Iniistius* に由来し、本亜科に対してテンス亜科の標準和名を新たに提唱する。

材料と方法

標本の計数・計測は福井ほか（2016）にしたがった。これに加え、眼下骨高（suborbital width）と背鰭起部—眼間長（distance between dorsal-fin origin to eye）を計測し、主尾鰭条（principal caudal-fin rays）を計数した。主尾鰭条は尾鰭縁辺にまで達しているものとした。眼下骨高は Hubbs and Lagler (1964) にしたがって、眼窩下縁から眼下骨下縁までの距離とした。背鰭起部—眼間長は背鰭起部から眼窩上端までの距離とした。標準体長（standard length）は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数第 2 位を四捨五入した。計測値は体長に対する百分率で示した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真（Fig. 1）に基づく。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本研究で用いた研究機関略号は、KAUM（鹿児島大学総合研究博物館）である。

Iniistius verrens (Jordan and Evermann, 1902)**バラヒラベラ**

(Fig. 1; Table 1)

標本 3 個体：KAUM-I. 224976, 雄相, 体長 188.3 mm, KAUM-I. 224977, 雄相, 体長 175.5 mm, KAUM-I. 224978, 雌相, 体長 155.0 mm, 鹿児島県日置市東市来町伊作田江口漁港沖, 31°39'N, 130°19'E, 水深 20 m, 吾智網, 2026 年 6 月 9 日, 園頭宗明寄贈。

記載 計数値と体各部測定値の標準体長に対する割合(%)は Table 1 に示した。体は尾柄に向かって細くなる矩形を呈する。体背縁の輪郭は吻端から眼窩前端直上までは弧状をなして急激に上昇し, そこから背鰭基底後端までは上方向に緩やかに膨らんだ弧状で, 背鰭基底後端から尾柄部後端にかけて緩やかに下降する。体腹縁の輪郭は下顎先

端から臀鰭基底後端までは下方向に緩やかに膨らんだ弧状で, 臀鰭基底後端から尾柄部後端にかけて緩やかに上昇する。体は著しく側扁し, 体幅は頬部で最大。

眼は正円形。鼻孔は 2 対で, 後鼻孔は眼窩前部に, 前鼻孔は後鼻孔のほぼ直下に位置する。口は伸出せず, 上顎先端は下顎先端のほぼ直上に位置する。両顎歯は 1 列に並び, 大きく発達した犬歯状歯が 1 対ずつある。前鰓蓋骨後縁は円滑。側線は体側後部で中断し, 上側線は主鰓蓋骨基部上端から背鰭第 9 軟条か第 10 軟条の基部直下にかけて体背縁輪郭に並走する。下側線は背鰭第 10 軟条か第 11 軟条の基部直下から尾鰭基底中央にかけて直線状に走る。背鰭は 1 基で, 背鰭起部は眼窩後端のほぼ直上かやや後方, 背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上よりやや前方に位置する。背鰭第 1, 2 棘とともに柔らかく, 背鰭第 2 棘と第 3 棘の間の鰭膜は深く切れ込み, それより後部の輪郭は平滑な

Table 1. Meristic and morphometric characters of *Iniistius verrens* from the western Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan.

	KAUM-I. 224976	KAUM-I. 224977	KAUM-I. 224978
Standard length (SL; mm)	188.34	175.52	155.98
Meristics			
Dorsal-fin rays	IX, 12	IX, 12	IX, 12
Anal-fin rays	III, 12	III, 12	III, 12
Pectoral-fin rays	12	12	12
Principal caudal-fin rays	11	12	12
Vertical scale rows on cheek	6	8	7
Horizontal scale rows on cheek	8	8	7
Pored lateral-line scales	20 + 5	21 + 5	19 + 5
Total gill rakers	4 + 11	4 + 12	4 + 10
Morphometrics (% SL)			
Body depth	37.7	35.9	30.1
Body width	12.6	10.9	10.1
Head length	30.0	27.4	23.1
Snout length	17.9	16.2	12.8
Orbit diameter	3.7	4.0	3.7
Interorbital width	5.7	5.7	4.8
Upper-jaw length	9.0	8.5	6.1
Suborbital width	12.6	11.1	9.1
Distance between dorsal-fin origin to eye	7.7	7.2	9.1
Pre-dorsal-fin length	25.6	24.7	22.2
Pre-anal-fin length	53.3	48.9	44.6
Pre-pelvic-fin length	29.9	26.6	22.2
Dorsal-fin base length	77.3	70.5	61.0
Anal-fin base length	39.6	38.3	33.2
Distance between 1st and 2nd DSB	3.2	3.2	3.0
Distance between 2nd and 3rd DSB	5.7	6.1	5.4
Distance between 3rd and 4th DSB	3.4	3.7	3.8
1st dorsal-fin spine length	14.9	13.8	12.1
2nd dorsal-fin spine length	13.1	9.6	10.0
3rd dorsal-fin spine length	11.6	10.1	9.1
9th dorsal-fin spine length	10.9	9.5	8.8
1st anal-fin spine length	4.8	4.7	3.9
2nd anal-fin spine length	6.8	5.6	5.4
3rd anal-fin spine length	7.4	7.1	6.7
Pectoral-fin length	25.5	21.1	20.3
Pelvic-fin length	31.2	27.8	31.7
Caudal-peduncle length	15.4	13.1	11.4
Caudal-peduncle depth	13.9	13.6	11.4

DSB = dorsal-fin spine base.

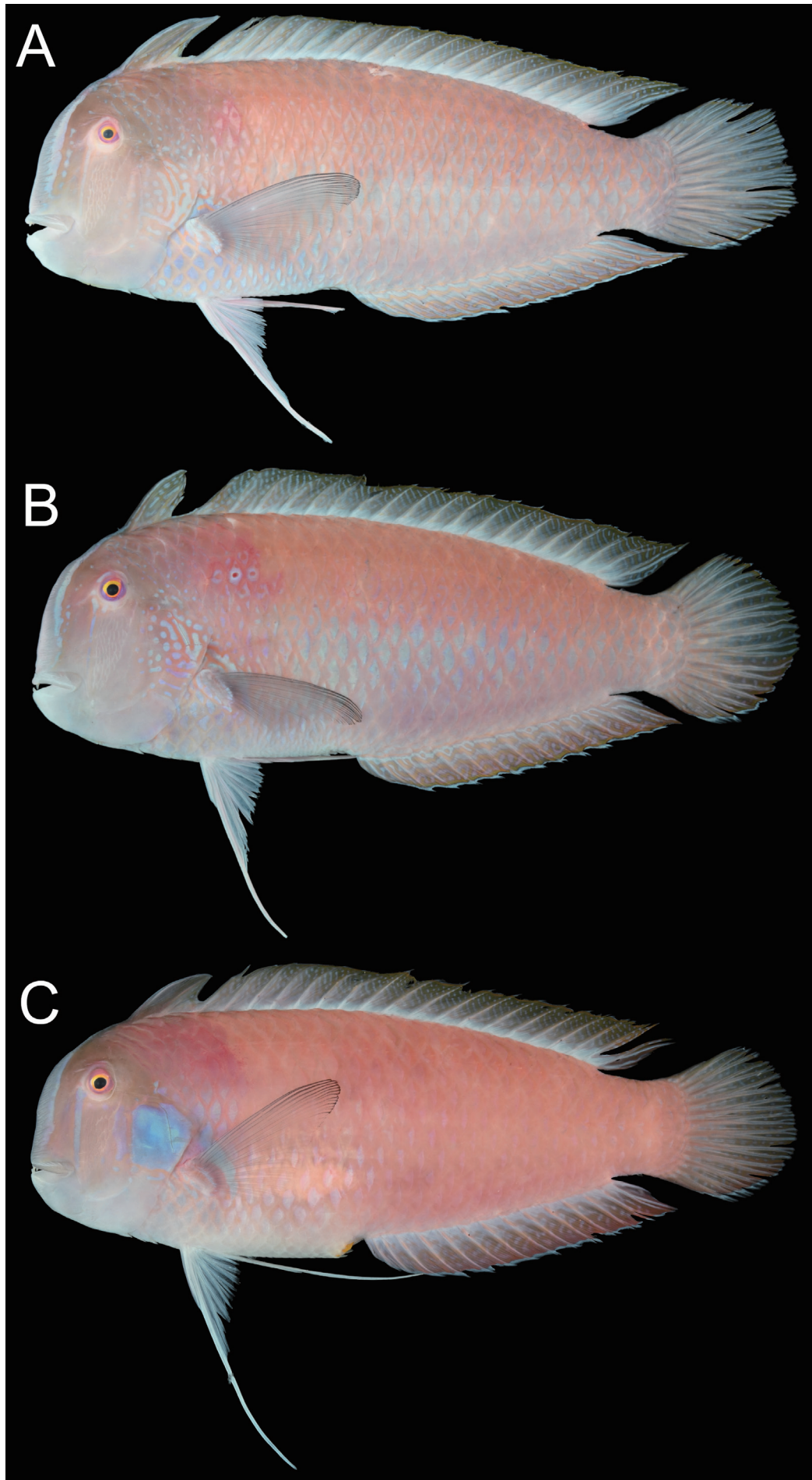


Fig. 1. Fresh specimens of *Iniistius verrens* from the western Satsuma Peninsula, Kagoshima mainland, Japan. A: KAUM-I. 224976, 188.3 mm SL; B: KAUM-I. 224977, 175.5 mm SL; C: KAUM-I. 224978, 156.0 mm SL.

アーチ状を成す。胸鰭はへら状を呈し、その後端は背鰭第9棘か第1軟条の基部直下に達する。胸鰭基底上端は腹鰭起部のほぼ直上に、胸鰭基底下端は腹鰭基底後端のほぼ直上かわずかに後方に位置する。腹鰭第1軟条は著しく伸長し、倒した際に肛門をはるかに越える。臀鰭起部は背鰭第9棘か第1軟条の基部のほぼ直下に位置する。臀鰭棘は第3棘が最長で、外縁は円弧を描く。尾鰭は後縁が円みを帯びた円形を成す。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体側面の地色は淡い紅色で、KAUM-I. 224978 は他の2個体に比べて赤みが強い。いずれも、背面側に向かうほど赤く濃く、腹面に向かうほど薄く白みがる。頭部はややくすむが、前端は青みがかった白色を呈する。眼の前後、鰓蓋、および胸鰭基部周辺には、淡青色から青色の斑紋や波状紋が分布し、KAUM-I. 224978 では、鰓蓋と胸鰭基部における青色斑が大きく発達する。胸鰭基部直上の側線周辺には、KAUM-I. 224976, 224977 では不明瞭な赤色斑が、KAUM-I. 224978 では赤色を呈する領域がある。背鰭、臀鰭、および尾鰭はいずれも淡い黄色で、淡青色から青色の波状紋が分布する。背鰭と臀鰭の基底部は白みがかかり、臀鰭と尾鰭下葉はやや赤みがる。胸鰭は半透明で、先端部が黒い。腹鰭は青みがかった白色。虹彩は橙黄色で瞳孔を縁取り、その外側を淡い紫色が囲む。瞳孔は黒色。

分布 本種は東アジアの固有種で、韓国、日本、中国、および台湾から記録されている (Jordan and Evermann, 1902; Chen et al., 1997; Parenti and Randall, 2000; Westneat, 2000; Park et al., 2007)。日本国内からはこれまでに神奈川県三浦半島西岸 (小網代湾)、神奈川県小田原市早川 (相模湾)、静岡県伊豆半島西岸 (大瀬崎)、三重県志摩市 (御座沖)、および高知県 (土佐湾) から記録されており (Kamohara, 1964; 山川, 1984; Senou et al., 2006; 島田, 2013; 加藤, 2016; 松沼ほか, 2017; 工藤ほか, 2022; 本田ほか, 2024; 木村・笹木, 2025)、本研究により新たに鹿児島県の薩摩半島西岸 (日置市東市来町沖) から確認された。

備考 本報告で記載した標本は、いずれも背鰭条数が IX, 12 であること、臀鰭条数が III, 12 であること、胸鰭条数が 12 であること、主尾鰭条数が 12 であること、側線が中断し、側線鱗数が 19–21 + 5 であること、背鰭第2・3棘間が第3・4棘間よりも広いこと、大きく発達した犬歯状歯が1対ずつあること、および背鰭第1, 2棘が柔らかいことなどからテンス属 *Iniistius* の特徴 (Randall and Earle, 2002) に一致した。さらに、腹鰭を倒した際に第1軟条後端が肛門を大きく越えること、体側に明瞭な赤色斑や暗色斑がないこと、および胸鰭先端部が黒いことなどが、島田 (2013) の示したバラヒラベラ *Iniistius verrens* の特徴によく一致したため、本種に同定された。

なお、本研究で使用した東市来町産のバラヒラベラの標本のうち、KAUM-I. 224976, 224977 は、生鮮時に体側面が淡い紅色を呈し、胸鰭基部直上の側線周辺に不明瞭な複数の赤色斑がある一方、KAUM-I. 224978 では体色がより濃く、鰓蓋と胸鰭基部における青色斑が大きく発達する。山川 (1984) や加藤 (2016) で示されている本種の雌雄差から、KAUM-I. 224976, 224977 は雄相、KAUM-I. 224978 は雌相であると考えられる。

本種の日本国内における記録は「分布の項」に記述したとおりであり、本研究で得られた鹿児島県産の3標本は、九州からのバラヒラベラの初記録となる。なお、国内における本種のこれまでの報告のうち、神奈川県小田原市早川 (相模湾)、静岡県伊豆半島西岸 (大瀬崎)、および三重県志摩市 (御座沖) からの記録は写真に基づくものであった (Senou et al., 2006; 島田, 2013; 笹木, 2025)。標本に基づく記録としては、神奈川県三浦半島西岸 (小網代湾) と高知県 (土佐湾) からのみであり (Kamohara, 1964; 松沼, 2017; 工藤ほか, 2022)、本研究が国内3例目となる。また、本種のこれまでの日本国内における記録は神奈川県から高知県にかけての太平洋沿岸に限られていたが、本研究によって初めて東シナ海沿岸から記録された。

Xyrichtyinae に適用すべき標準和名の検討

ベラ科の亜科 Xyrichtyinae は、現在、7 属 47 種で構成されている (Near et al., 2025; Fricke et al., 2026)。本亜科のタイプ属である Xyrichtys は、長年テンス属 *Iniistius* の古参異名として扱われていたが、Randall and Earle (2002) が Nguyen (1974) による頭骨の形態比較に基づき、これらがそれぞれ別属として有効であることを示した (島田, 2013)。これに伴い、中坊 (2000) までに日本産の Xyrichtys として扱われていた 10 種のうち、テンスモドキ *Novaculops sciistius* (Jordan and Thompson, 1914) を除く 9 種が現在のテンス属 *Iniistius* へ変属された。なお、テンスモドキについても、後に Randall (2013) によって現在のテンスモドキ属 *Novaculops* Schultz, 1960 へ変属された。これにより、日本産として Xyrichtys に属する種は存在しなくなった。

日本魚類学会 (2025) の 4.3.1 条によると、科階級群の標準和名は、「原則としてタイプ属の標準和名を適用すべきである」とされている。しかし、本亜科のタイプ属である Xyrichtys は、前述のとおり日本近海からの記録はなく、本属に対する標準和名も確立されていない。和名テンス属は山川 (1984) 以来 Xyrichtys に対して適用されていたが、それ以前から岡田・松原 (1943) や松原 (1955) などにおいて *Iniistius* に対して用いられてきた (島田, 2013)。現在、Xyrichtyinae に含まれる属のうち、日本近海からは *Iniistius* に属する種が最も多く記録されているこ

とから（島田，2013；本村，2026），本属は日本における Xyrichtyinae の最も代表的な属といえる．そのため，日本魚類学会（2025）の 4.3.2 条に基づき，Xyrichtyinae に対して新標準和名テンス亜科を提唱する．なお，日本産テンス亜科は，現在，スナベラ属 *Ammolabrus* Randall and Carlson, 1997（構成種 1 種），タテヤマベラ属 *Cymolutes* Günther, 1861（1 種），テンス属 *Iniistius*（10 種），オビテンスモドキ属 *Novaculichthys* Bleeker, 1862（1 種），オオヒレテンスモドキ属 *Novaculoides* Randall and Earle, 2004（1 種），およびテンスモドキ属 *Novaculops*（3 種）の 6 属 17 種が記録されている（本村，2026）．

謝 辞

江口蓬萊館の園頭宗明氏には水揚げされた魚類を寄贈していただいた．鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには，標本の作製および登録作業においてご協力いただいた．Ichthy 編集委員と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた．以上の方々に深謝する．本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた．本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」，JSPS 科研費（20H03311・21H03651・23K20304・24K02087），JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型（CREPSUM JPJSCCB20200009），文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」，および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた．

引用文献

- Chen, Q.-C., Y.-Z. Cai and X.-M. Ma (eds.). 1997. Fishes from Nansha Islands to South China coastal waters 1. Science Press, Beijing. xx + 202 pp.
- Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.). 2026. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. [URL](https://www.fishbase.org/ichthyology/catalog) (31 July 2026)
- 福井美乃・小枝圭太・本村浩之. 2016. 標本に基づくヒノマルテンス（ベラ科）の奄美大島と加計呂麻島からの記録，および成長に伴う形態変化に関する知見. *Nature of Kagoshima*, 42: 293–298.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録（改訂）. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学），53: 127–218.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1964. Fishes of the Great Lakes region. Second edition. University of Michigan Press, Ann Arbor. xv + 123 pp.
- Jordan, D. S. and B. W. Evermann. 1902. Notes on a collection of fishes from the island of Formosa. *Proceedings of the United States National Museum*, 25: 315–368.
- Kamohara, T. 1964. Revised catalogue of fishes of Kōchi Prefecture, Japan. Reports of the Usa Marine Biological Station, 11: 1–99.
- 加藤昌一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック. ベラ&ブダイ. 日本で見られる 192 種＋幼魚，成魚，雌雄，婚姻色のバリエーション. 誠文堂新光社，東京. 319 pp.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南岸魚類目録. 神奈川県自然誌資料，43: 97–142.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 I–III. 石崎書店，東京. xii + 790 pp., vi + 791–1605 pp., xiv + 135 pls.
- 松沼瑞樹・内藤大河・佐藤真央・水町海斗・山本祥代・泉 幸乃・山川 武・遠藤広光・佐々木邦夫. 2017. 高知市春野漁港内で採集された魚類. *Nature of Kagoshima*, 44: 47–71.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島. 70 pp.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 41. [URL](https://www.fishbase.org/ichthyology/catalog) (31 July 2026)
- 中坊徹次（編）. 2000. 日本産魚類検索 全種の同定. 第 2 版. 東海大学出版会，東京. 1748 pp.
- Near, T. J., C. D. Brownstein, C. E. Thacker and P. C. Wainwright. 2025. Phylogenetic taxonomy of wrasses and parrotfishes (Labridae). *Bulletin of the Peabody Museum of Natural History*, 66: 263–338.
- 日本魚類学会. 2025. 魚類の標準和名の命名ガイドライン. <https://www.fish-base.org/wp-content/uploads/guidelines2020.pdf>
- Nguyen, T.-T. 1974. Osteological studies on the labrid fishes (family Labridae) of Japan—Morphology, taxonomy and phylogeny—. Doctoral dissertation, Ocean Research Institute, University of Tokyo: iii + 108, 35 figs., 8 tables.
- 岡田彌一郎・松原喜代松. 1943. 日本産魚類検索. 三省堂，東京. xi + 584 pp.
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2000. An annotated checklist of the species of the labroid fish families Labridae and Scaridae. *Ichthyological Bulletin of the J. L. B. Smith Institute of Ichthyology*, 68: 1–97.
- Park, J.-H., J. K. Kim, Y. S. Yoon and O. S. Heo. 2007. First record of two perciform fishes, *Pteropsaron evolans* (Percophidae) and *Xyrichtys verrens* (Labridae) from Korea. *Integrative Biosciences*, 11: 135–139.
- Randall, J. E. 2013. Seven new species of labrid fishes (*Coris*, *Iniistius*, *Macropharyngodon*, *Novaculops*, and *Pteragogus*) from the western Indian Ocean. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 7: 1–43.
- Randall, J. E. and J. L. Earle. 2002. Review of Hawaiian razorfishes of the genus *Iniistius* (Perciformes: Labridae). *Pacific Science*, 56: 389–402.
- 笹木大地. 2025. テンス属，pp. 345–346. 木村清志・笹木大地（編）*美し国の魚たち 三重県の魚類図鑑*. 木村清志，伊勢.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, 41: 389–542.
- 島田和彦. 2013. ベラ科，pp. 1088–1136, 2045–2056. 中坊徹次（編）*日本産魚類検索 全種の同定*. 第 3 版. 東海大学出版会，秦野.
- Westneat, M. W. 2000. Family Labridae, pp. 627–630. In Randall, J. E. and K. K. P. Lim (eds.) *A checklist of the fishes of the South China Sea*. *Raffles Bulletin of Zoology, Supplement*, 8. National University of Singapore, Singapore.
- 山川 武. 1984. モチノウオ亜科 Cheilinae, pp. 204–206, pls. 207–210. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編）*日本産魚類大図鑑*. 東海大学出版会，東京.